

Vol.6

がやチラ

ちょっと面白いコミュニティスペースでの毎日



私は埼玉県家庭教育アドバイザーとして、保護者の方に向けてお話をすることがあります。10月からは、越谷市内の小学校の就学時健診で、これから入学を迎える子どもたちの保護者に向けて、家庭でできること、学校と家庭がどのように一緒に子どもを支えていけるのか、そんなお話を予定です。

就学を迎える時期は、子どもにとって大きな節目ですが、親にとっても同じです。新しい生活への期待がある一方で、学校になじめるだろうか、友達とうまくやっていけるだろうか、勉強についていけるだろうか、さまざまな心配が頭をよぎります。幼稚園や保育園では特に問題なく過ごしていたとしても、「小学校」という言葉を前にすると、急に不安が大きくなることもあります。

講座で保護者の皆さんの表情を見ていると、そんな不安を抱えているのは決して一人ではないのだと感じます。同じように子どものことを心配し、迷いながら子育てをしている人が、目の前にたくさんいる。それでも、その不安を日常の中で誰かに話せているのかというと、また別の話なのかもしれません。

今は、子育てについて知りたいと思えば、インターネットですぐに調べられます。発達のこと、生活習慣のこと、友達関係のこと。専門家の解説も、経験者の体験談も、驚くほどたくさん見つかります。でも、情報が手に入ることと、安心できることは同じではありません。むしろ、情報が多いからこそ、「うちの子は大丈夫なのだろうか」と不安が増えてしまうこともあります。

「うちの子、こんな様子なんだけど大丈夫かな」と口にしたときに、「うちもそうだったよ」と返してくれる人がいること。「それは心配になるよね」と、一緒に考えてくれる人がいること。正しい答えをくれる人ではなくても、自分の気持ちを受け止めてくれる人がいるだけで、親の気持ちはずいぶん違います。

先日、地域の子育てサロンを見学させていただきました。親子でゆっくり過ごせるようにおもちゃが用意され、スタッフの方たちも温かく迎えてくれる、とても居心地のよい場所でした。子育て中の親にとって、こういう場所が身近にあることは、とても心強いことだと思います。

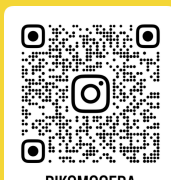
ところが、お話を伺っている中で、少し意外なことを聞きました。

「近所の方は、案外来ないんですよ」

少し離れた地域から足を運んでくる親子はいるのに、歩いて来られるような距離に住んでいる人たちは、なかなか来ないというのです。その言葉が、私はずっと気になっています。

場所があります。迎えてくれる人もいます。「ぜひ来てください」と扉も開いています。それなのに、なぜ来ないのだろう。

オーナー吉田りこのSNSたち



今すぐ
チェック！

考えてみれば、初めて子育てサロンに行くということにも、それなりの勇気が必要なのかもしれません。知らない人たちの中に入っていく、自分から話しかけ、子どものことや家庭のことを話す。近所であればあるほど、「知っている人に会ったらどうしよう」「何か困っていると思われるのではないか」と気になることもあるでしょう。

そして、多くの場合、親自身が「相談するほどのことではない」と思ってしまうのではないのでしょうか。

子育ての大変さは、いつも分かりやすい形で現れるわけではありません。眠れないほど悩んでいるわけではない。でも、なんとなくしんどい。ほかの子と比べて少し気になる。自分の育て方が間違っているような気がする。そんな小さな引っかかりが少しずつ積み重なっていくことがあります。

そんな段階で誰かに話すことができれば、それだけで気持ちが軽くなることがあります。でも、「困ったら相談してください」と言われても、自分がその“困っている人”に当てはまるのかどうか、本人には分からないこともあります。だから私は、「助けて」と言えるかどうかを、本人の勇気だけに任せてはいけないのではないかと考えています。

「助けて」と言える環境は、地域の側が意識してつくっていくものなのだと思います。

昔の地域には、専門家でも相談員でもないけれど、子どものことも親のこともなんとなく知っている人がいました。道で会えば少し話をし、その中で「最近、この子がね」と悩みがこぼれる。

すると、「うちもそうだったよ」と返ってくる。必要であれば、「それなら、あそこに相談してみたら」と誰かにつないでくれる。そうした何気ないやりとりが、実は家庭を支える大きな力になっていたのではないのでしょうか。

もちろん、昔の地域社会をそのまま取り戻せばよいという話ではありません。今は暮らし方も、人との距離感も変わっています。だからこそ、今の時代に合った形で、人がゆるやかにつながれる場所を意識してつくっていく必要があるのだと思います。

私たちが運営しているガヤChillも、そんな場所でありたいと思っています。何か相談がある人だけが来る場所ではなく、お茶を飲んだり、誰かと話したり、イベントに参加したりしながら、少しずつ顔見知りになっていく場所です。

最初から悩みを話さなくてもいい。ただ、何度か会って、少し話して、「この人なら聞いてくれるかもしれない」と思えたときに、初めて「ちょっと聞いてもらっていい？」という言葉が出てくるのだと思います。

家庭教育支援というと、何か特別な制度や専門的な支援を思い浮かべがちです。でも、本当に大切なのは、その少し手前にある日常の関係なのかもしれません。

支援から関係が始まるのではなく、関係があるから支援につながる。

「助けて」と言える人を増やすためには、「助けて」と言わなくてもつながっていただける地域をつくること。困ってから誰かを探すのではなく、困る前から知っている人がいること。私は、家庭教育支援とは、そんな関係を日々の暮らしの中で少しずつ育てていくことでもあるのだと思っています。

ガヤChill.

店長日誌 夜の居場所カフェ



10/20(木) 9:00～朝市:

10/26(月) 9:00BAR:

「仕事や学校帰りに、理由がなくてもふらっと立ち寄れる夜の居場所をつくりたい」そんな思いからスタートしたガヤChillの「夜カフェプロジェクト」。おかげさまで、クラウドファンディングの目標を達成いたしました！ここは、誰かと話しても、勉強や作業をしても、一人で静かに過ごしてもいい場所です。「Food is GREAT!」ガヤChillは、温かい食事と緩やかな人とのつながりで、孤独を感じる若者を支援しようと動き始めました。仕事があっても、住む場所があっても孤立してしまう若者に、夜の居場所を。その先もあきらめず歩んでいけるように。夜カフェを地域に根づく拠点として永続的に届けていくためには、さらに多くの仲間とご支援が必要です。一人でも多くの若者に「ここにいていいんだ」と思える温かな灯りを届けるため、引き続き情報の拡散やご協力をお願いいたします！



コミュニティCafe?!

木・土ランチや、レンタルスペース、野菜もハンドメイドも販売中！気軽にお茶しに来てね。今回は初めてのクラファン達成の御礼と、ご支援継続の願いをしたためました。ぜひぜひ、ガヤChillに興味をもっていただきたいです✧

越谷市大里226-1 1F (大袋駅徒歩10分)

コミュニティカフェ ガヤChill.

Instagram

